



品質・収量確保の最後の決め手は水管理と適期刈取！ ～ 高温に対応した適期収穫で品質向上を目指しましょう ～

1 飽水管理は可能な限り継続し、後期栄養保持と根の活力維持を！

- 早期落水による等級の低下を避けるため、天候やほ場の状態を考慮し、できるだけ出穂期 25 日後まで飽水管理を継続しましょう。
なお、晩生品種等で出穂期 25 日後までの用水確保が困難な地域では、かん水可能期間の最終日に十分湛水するなど土壌水分の保持に努めましょう。
- 異常高温やフェーン等が予想される場合は、あらかじめ 3cm 程度湛水し、フェーン後に速やかに落水します。（根腐れ防止のため）
- 輪番給水地域では気象予報や通水日を確認し、節水を心がけ適切な水管理に努めましょう。

2 収穫前に事前準備を入念に整え、高温に対応した適期収穫を！

- 高温気象により収穫期が早まる見込みです。品種ごとの成熟期や天候の推移を見極めながら早めに作業計画を立てましょう。

【品種別の出穂期と積算平均気温による収穫適期のめやす（8月20日現在）】

品 種 名	出穂期	飽水管理終了 (出穂期 25 日後)	収穫適期のめやす
★ゆきみらい	7月15日	8月9日	8月21日(975℃)
★新 潟 次 郎	7月19日	8月13日	8月27日(1,000℃)
★ゆきん子舞	7月20日	8月14日	8月26日(950℃)
★五 百 万 石	7月18日	8月12日	8月24日(975℃)
★こしいぶき	7月23日	8月17日	8月30日(975℃)
こがねもち	7月30日	8月24日	9月8日(1,000℃)
コシヒカリ	8月4日	8月25日	9月13日(1,000℃)
新 之 助	8月10日	9月4日	9月24日(1,050℃)

※ 出穂期は村上地域の平均的な出穂期としています。

※ 8月16日までは本年値、以降は平年値で積算。(村上アメダスデータより)

- 上記の表を参考として、ほ場で籾の黄化程度を必ず確認しましょう。
- 籾黄化割合 85～90%が収穫適期です。茎葉や穂軸の色は品種や栽培条件等によって変わるので、必ず籾の色で判断しましょう。(岩船米づくり情報 No.6 を参照。)
- 上記の表で、「7月 23 日までに」出穂期となった★印の品種は、高温登熟で刈り遅れると基部未熟粒が増加するので、上記の収穫適期のめやすより2日程度早めに刈り取りましょう。

積算早見表など収穫適期予想の技術情報は、村上地域振興局農林振興部のホームページに随時掲載します。

(https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/murakami_norin/20260813syuukakutekk.html)



QR コード
はこちら